

調査概要

県で実施する「林業事業者等調査」に併せ、地域振興局を通じて林業事業者あてに調査票を配布し郵送等により回収。

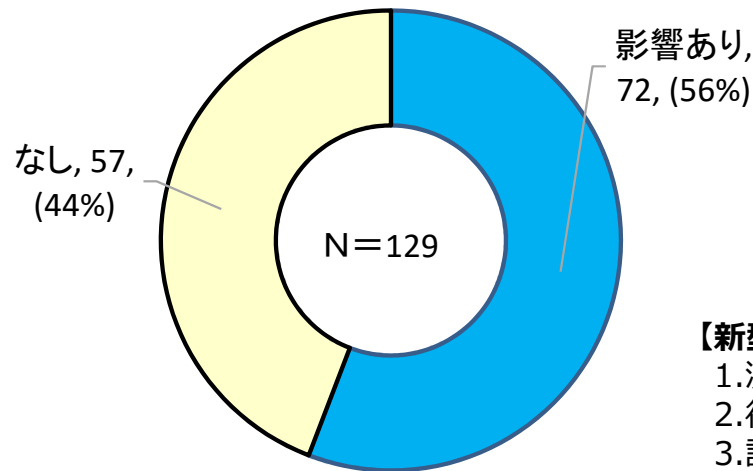
- 調査期間 令和2年5月19日～6月5日
- 調査協力 林業事業者 129者（林業事業者165者の78%に相当）

調査結果（概要）

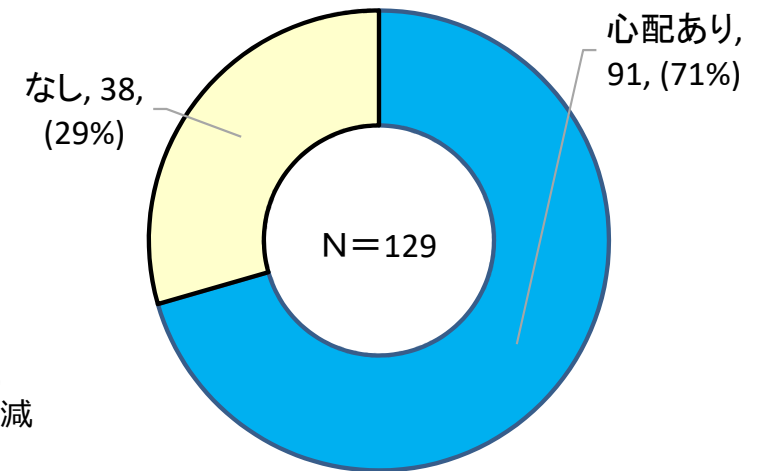
1 現時点（R2.5月）での影響及びこれから先、心配（不安）なこと（複数回答可）

現時点では、何らかの影響が生じていると回答している事業者が半数以上（56%）に及んでおり、これから先になると7割を超える事業者が心配（不安）を抱えている。

■現時点（R2.5月）での影響



■これから先（3か月～半年程度）、心配（不安）なこと

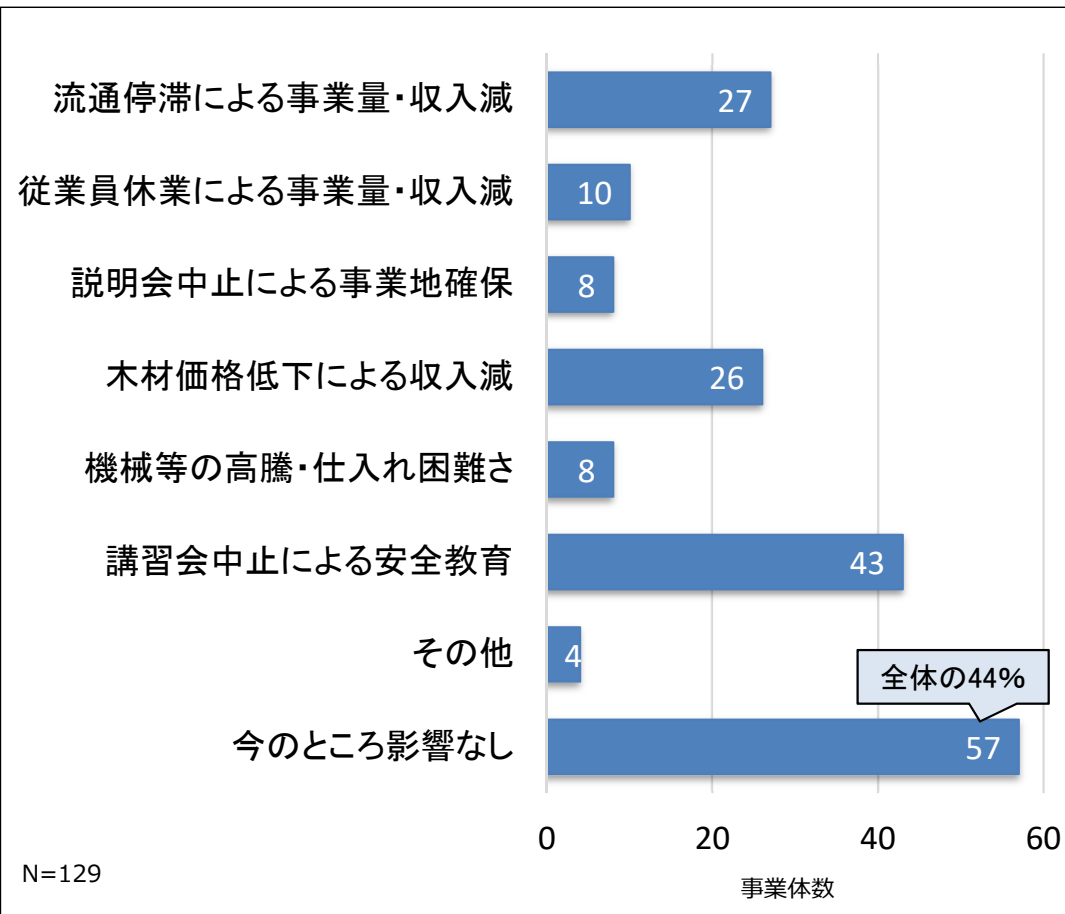


【新型コロナウイルスによる影響】

1. 流通停滞による事業量・収入減
2. 従業員休業による事業量・収入減
3. 説明会中止による事業地確保
4. 木材価格低下による収入減
5. 機械等の高騰・仕入れ困難さ
6. 講習会中止による安全教育

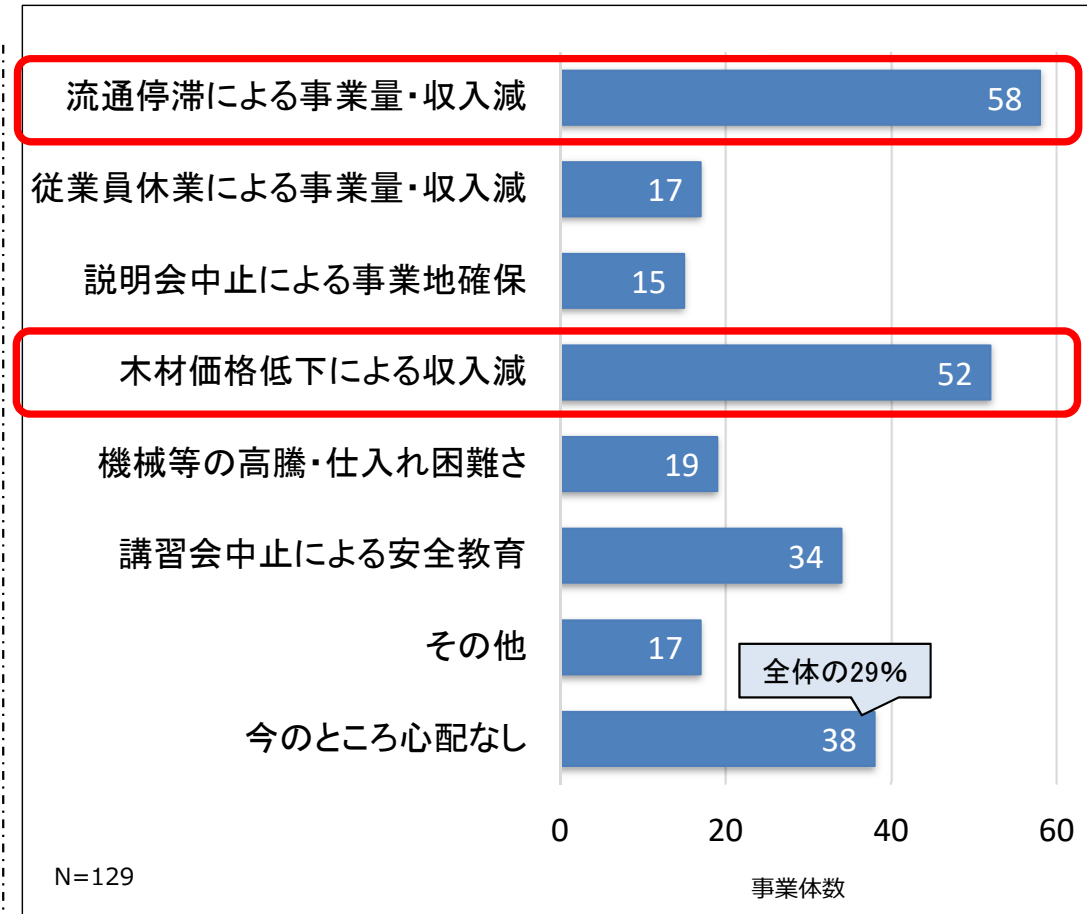
現時点では、講習会の中止による安全教育の影響が最も多いが、これから先は、木材流通の停滞と価格の低下に不安を抱える事業者が多く、経営への影響が懸念される。

■現時点（R2.5月）での影響



- 【その他】
- ・土場が一杯で木材を運ぶことができない
 - ・収益性の低下により、所有者への還元が厳しい
 - ・林業総合センターの宿泊棟が使用できず支出が増えている
 - ・レストランや宿泊施設の休業により収入が減少している など

■これから先（3か月～半年程度）、心配（不安）なこと

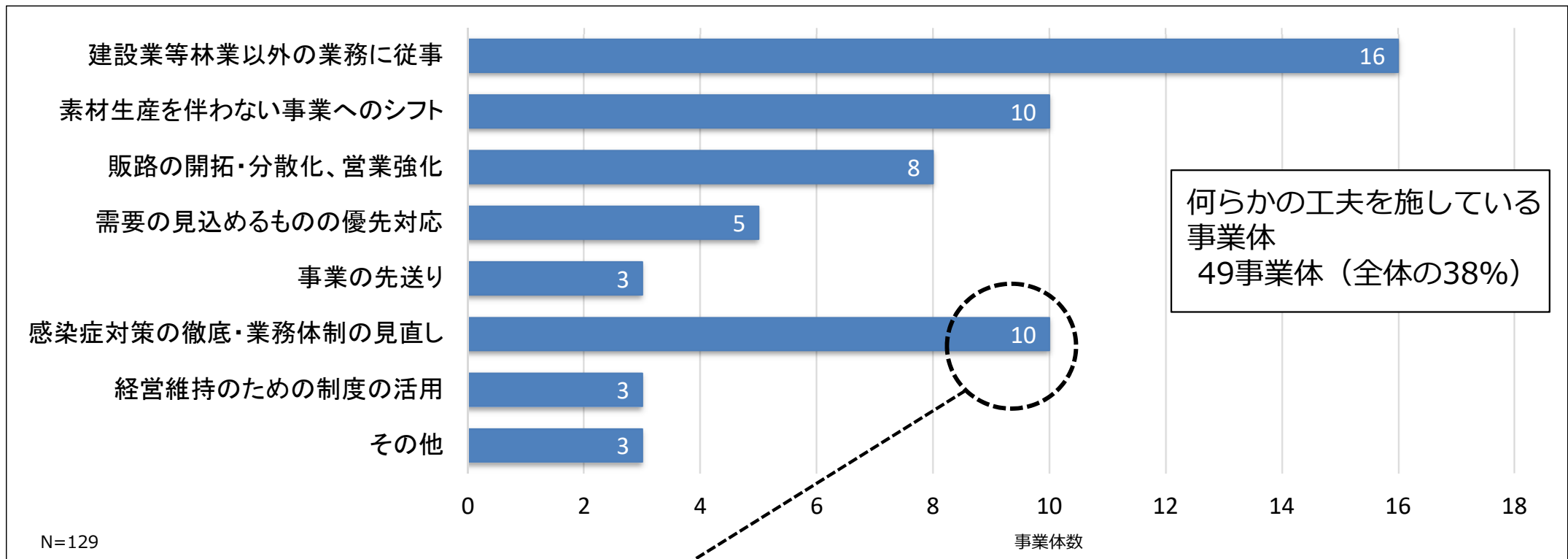


- 【その他】
- ・高性能林業機械のリース料等の固定費の支払い
 - ・現場に向かう車を乗り合いで使えない
 - ・国有林で事業地が確保できるのか
 - ・今後どのような影響が生じるのかが見通せない など

2 事業体経営のために工夫していること（考えていること）：自由記載（複数記載あり）

一時的に建設業等の林業以外の業務に従事している事業体や、素材生産を伴わない事業へのシフトなど、事業内容を工夫して経営に取り組んでいる事業体が見られる。

また、就業者が感染しないよう、事業体独自の感染症対策を強化している事業体も見られる。



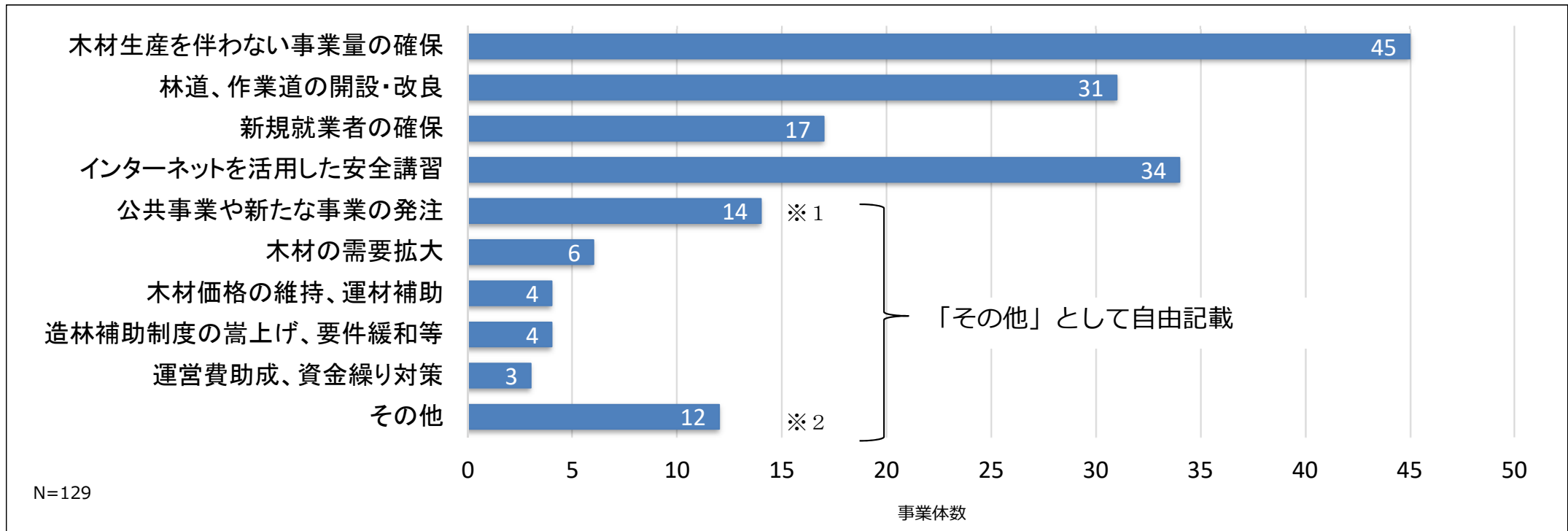
【感染症対策の内容】

- ・現場への通勤車両の乗り合いを避ける（自家用車の活用等）
- ・休日出勤等を活用して分散業務を実施
- ・就業者をグループ分けして一堂に会する機会をなくす
- ・独自のガイドラインの作成 など

3 県や市町村で講じて欲しい施策（複数回答可）

木材の流通の停滞、価格の低下などによる経営の影響への懸念から、木材生産を伴わない事業量の確保への要望が最も多く、さらに、林道・作業道等の開設・改良や公共事業といった集約化等の事前準備を伴わない発注事業など、当面の経営を乗り切る取組への期待が高い。

また、インターネットを活用した安全講習への要望も高く、第2波、第3波への警戒が背景にあると考えられる。



- ※1 公共事業や新たな事業の発注
- ・ ライフライン、景観対策、河畔林整備等森林税活用事業
 - ・ 松くい虫枯損木処理、樹種転換
 - ・ 森林環境譲与税を活用した保育事業の創設

- ※2 その他（主なもの）
- ・ 適時適切な対応、細やかな情報提供
 - ・ 国有林による生産調整
 - ・ 高性能林業機械の補助の充実
 - ・ 労働安全衛生規則に基づく伐木造材の補講の期限延長
 - ・ 捺印したPDFを正本として扱う
 - ・ 免疫力を高めるための森林空間の利用 など